

郡上白山文化における御師の 歴史的役割の研究

～石徹白地域における御師と現代の観光とのつながり～

岐阜女子大学大学院
デジタルアーカイブ専攻

有井 弥生



はじめに ～なぜ白山御師について研究を始めようと思ったのか～

自分の中の御師のイメージは、現代でいうツアーコンダクター、旅行会社の営業、企画担当でしたが、それだけではない当時の「**歴史的背景や御師の果たした役割等**」について知りたいと思った。また知人が白山御師ツアーを開催したことから、「**信仰と現代の観光とのつながり**」についても調査研究をすることとした。

研究
方法

参考文献

白鳥町史や郡上市史をはじめとした地域の文献について調べる。

聴き取り調査

白山御師に関する見識ある方に会い話を伺う。「**白山御師資料集**」を編集された上村さんにも話を伺った。

現地調査

実際に現地に行き、関係者に話を伺ったり、撮影等を行った。

オーラルヒストリー

白山御師の檀那場巡りを5年間続けた水上さんに**オーラルヒストリー**を行った。

考察

これまでの調査から役割や背景、観光とのつながりについて考察する。

美濃禪定道とは

～白山登頂を目指す登拝の道のひとつ～



泰澄大師の「白山の開山」をきっかけに、禪頂と呼ばれた白山山頂を目指す参詣道として設けられた登拝の道の一つで、美濃側に開かれた道であることから美濃禪定道(みのうぜんじょうどう)と呼ばれました。白山山頂への禪定道は、そのほか石川県側からの加賀禪定道、福井県側からの越前禪定道があり、各登拝口には、登拝者が集まる拠点として、美濃馬場(長滝白山神社・長瀧寺)、加賀馬場(白山比咩神社)、越前馬場(平泉寺白山神社)、の3つの馬場が設けられました。美濃馬場は主に東海・関東からの登拝の信者たちが往来し、「上り千人、下り千人」と呼ばれる賑わいを見せたと伝わり、白山信仰に篤い武将をはじめ、戦国武将として名高い織田、豊臣、徳川各家の信者もこの道を通ったといわれます。「長滝白山神社」を拠点とするその道中には「大師堂」「白山中居神社」「いとしろ大杉」といった史跡が信仰の道としての歴史を伝えています。

(郡上市観光連盟ホームページ)

TABITABI郡上より <http://tabitabigujo.com/>)

石徹白地域とはどんなところか(1)

～岐阜県郡上市白鳥町石徹白～



石徹白は平安時代から鎌倉時代にかけての白山信仰が盛んな時代には「上り千人、下り千人、宿に千人」と言われるほど修験者の出入りで栄えた土地であり、近世(明治)まで神に仕える人が住む村としてどの藩にも属さず、年貢免除・名字帯刀が許されたところです。

ゆえに「中世的支配体制」が明治になるまで維持され独特の文化が形成されました。最奥の「上在所集落」は夏は修験者や白山参詣の道案内と宿坊を営み、冬は「御師」として各地に信仰を広め御札を配ることを生業とする人々の住むところでした。

(岐阜県奥美濃石徹白区公式ホームページより <http://itoshiro.net/>)

村人が神に仕えた白山信仰の御師（おし）の里である

石徹白地域とはどんなところか(2)

～岐阜県郡上市白鳥町石徹白～



古い土地柄から文化財が多く、中でも「大師堂」にある「虚空像菩薩」は国定重要文化財に指定されています。これは当時奥州を支配していた「藤原 秀衡」の寄贈とされ小さな村ながらも白山信仰の重要な拠点であったことがうかがえます。

また、最近の研究で「源 頼朝」の追尾を受けた「源 義経」が奈良吉野山から奥州平泉への逃避行の途中石徹白に逗留し、雪解けを待ち脱出した可能性があるとも言われ、石徹白に残る伝承にもそれを示唆示唆する記述が見受けられます。

(岐阜県奥美濃石徹白区公式ホームページより <http://itoshiro.net/>)

名だたる武将も崇敬する白山信仰、石徹白は白山信仰の重要な拠点であった

石徹白地域に今も残る白山御師の家(1) ～清住家～

石徹白清住家



切妻式の二階建て、かつてはクレ板葺であった。二階には「ゴシンゼンノマ」、「ミタマサマノマ」がある。神前の間と仏間から、神道と浄土真宗の双方の影響が見て取られる。**(国登録有形文化財)** 畑に囲まれた敷地に建ち、東面に融雪池を控える。桁行8間梁間4間、切妻造鉄板葺。

石徹白地域に今も残る白山御師の家(2) ～伊織家～

石徹白伊織家



石徹白に残る唯一の御師の家。越前志比の大工によって万延元年(1860)頃に建てられている。切妻式の平屋でトタン板、かつてはクレ板葺であった。門構え等はなく水田と消雪用の池に囲まれ、部屋は「シンレイノマ」、「キャクマ」等の八間。参詣者は一階に宿泊していた。※江戸時代末期に建てられた集落最古級の建築です。



白山版木 御師が檀那場で配布した神札等の木

石徹白地区は、御師の家が点在していました。御師の家は室内に信仰の場(神殿)があります。その場所は2階の白山側、つまり北側と決まっていた。ゆえに北側の壁には窓がありません。祈祷場としての神殿があります。

いとしろ白山御師資料集より ～檀那場探訪の記録～



筆者の上村俊邦氏宅を訪問



御師を巡る旅に同行された水上氏に
オーラルヒストリーを実施

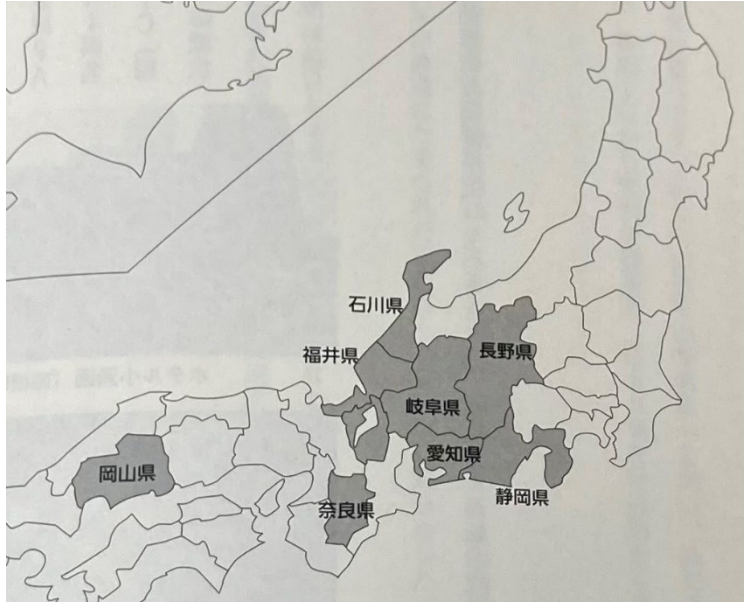


いとしろ白山御師資料集の表紙

平成27年から5年間に渡り、各地の檀那場を探訪された感想等

- 山岳文化であり結構山の奥まで信仰が広がっていた。（四国の剣山や長野県等白山神社が多い）
- 愛知県奥三河では、今でも白山御寶印の札を持っているお宅もあった。
- 発信檀那場を巡り、目的を伝えると喜んで歓迎してくれることが多かった。
- その土地で白山の神様は色々な神様になっているように感じた。（農業の神、歯の神様、航海の神様等）
- 白山にお詣りする時は、御師の家に泊まり、奉納したり、山に登る際は先達として案内していた。
長滝白山神社では僧坊が多かったが、石徹白は神の宿として（生活もかかっていたのではないかと推察）

石徹白御師は檀那場をどこまで巡廻していたのか



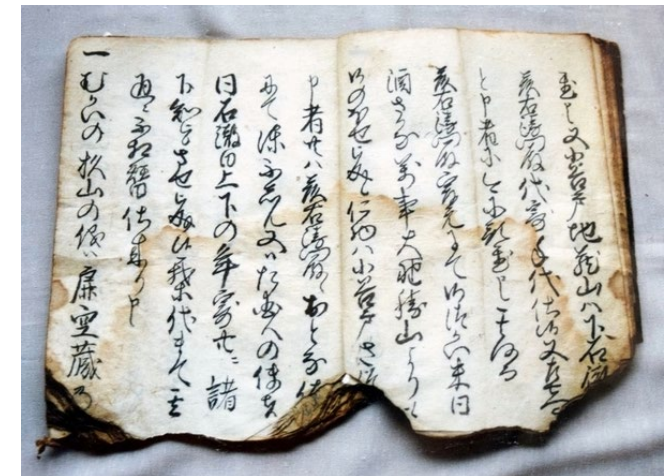
美濃、飛騨（岐阜）、尾張、三河、知多（愛知）、越前（福井）、加賀（石川）、信濃（長野）、甲斐（山梨）、遠江、駿河、伊豆（静岡）、相模（神奈川）、江戸（東京）、美作（岡山）まで

御師の巡廻奉加資料によると、江戸中期から明治・大正・昭和の初期まで檀那場があったとされている。

石徹白御師の巡廻した地域（県） 白山御師資料集より

石徹白の御師は、郡上街道を下って美濃・尾張・三河地方に熱心に布教しました。現在、全国に2700～2800社ある白山神社の約半数が東海地方にあるのは、これが要因だといわれています。

石徹白彦右衛門跡式帖（下巻） 白山御師資料集より



石徹白大師堂 ～奥州藤原秀衡・義経ゆかりの地～

泰澄大師像



靈峰白山開山の祖 泰澄大師座像

大師堂



石徹白大師堂

虚空蔵菩薩座像



上村修一さんに説明いただきました

【大師堂】

白山を開山した泰澄大師を祀るお堂です。明治の神仏分離の際に、白山中居神社などから移された仏像群も祀られています。その中でも「虚空蔵菩薩坐像」は白山の熱心な崇拝者であった奥州の藤原秀衡の寄進とも伝えられ、国の重要文化財に指定されています。他にも、県の重要文化財に指定された織田信長寄進の「鰐口」をはじめとする多くの仏具類も見どころです。

石徹白御師の役割、活動について

上在所に居住する白山中居神社の「社家」は「白山御師」として白山信仰を全国各地に広めている。「白山御師」の布教活動は三馬場では美濃馬場にのみで、明治三年に御師制度は廃止されたが、石徹白では大正年間まで続いていた。

1

【7月～8月】

＜白山登拝シーズン＞

檀那場からの白山講の講員や巡礼の宿泊、祈禱や禪定道の道案内、白山への代参等

2

【1月～5月】

＜布教活動＞

檀各地の集落に赴き、神礼、白山略図、雷除けの護符、白山薬草を配布。また白山社を勧請するため村民へ協力を求めるなど勧進僧的な役割も行った。

3

【その他の時期】

＜年中行事等＞

白山中居神社の維持管理、年中行事、布教活動等の準備等

- 白山中居神社の維持管理、登山案内、宿の世話、白山への代参、冬期は檀那場回り
- 檀那場へは、白山薬草・雷除けの護符・牛王札・白山道略図を配布して歩く

⇒ 一巡りすると多くの金品寄進が得られた、地域の得難い財源であった

白山信仰の影響力とは ～名だたる武将も深く崇敬した～

鎌倉時代～室町、戦国時代に御師は

マスメディアの発達していない
時代に合っても全国の社会状況
の流れに非常に精通していた

御師は、戦国武将達にも
影響を与えていた



大師堂にある織田信長寄進の鰐口

木曾義仲、藤原秀衡、足利尊氏、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの名だたる武将も白山神に祈願し、仏具等を寄進していることから、白山がいかに人々から深く崇敬されていたかがうかがえます。

⇒ 寄進するということは何か見返りも求めていた??

観光とのつながり ～現代の「白山御師」に話を聞いてみました～



← 白山御師としてツアー等行っている
前田さんにお話を伺いました

平成29年「白山開山1300年」に御師ツアー等開催されました

- 白山御師ツアーを開山1300年の際に4回程度ツアーを実施（20人程参加）
 - 「美濃白山神社三社巡礼ツアー」「白山御師と行く美濃禪定道」
 - 白山信仰のガイドとしての活動、白山の山々や古道を歩き、聖地を案内
- ⇒ 「当時の御師も時代のニーズに応じて活動していた、現代もニーズがある」

これからの観光への可能性 ～信仰と観光のつながり～

白山信仰美濃馬場は東海地方の観光の先駆けだった

⇒現在、聖地巡礼等**宗教ツーリズムが人気**である

＜富士山が世界遺産へ、山岳信仰が文化遺産として注目されている＞

蘇りの聖地世界遺産「熊野古道」ウォーク等も人気！

日本の精神性、歴史、文化を外国人がガイドするツアー等人気である。日本の聖地巡礼に注目する訪日外国人が「御師」のような役割を果たしている。外国人にとって、その国の宗教的な意味合いを持つ場所や施設を訪れることは観光の王道である。白山信仰も環境が整えば、インバウンドとしてもニーズがあるのではないか。



おわりに ～ 白山御師が果たした歴史的役割及び 現代の観光とのつながり～

白山御師は、**地域に利益をもたらすプロ職業**でもあった。戦国時代までは、信仰、祈願もしながら豊富な情報資源を持ち活動していた。江戸時代に入り、交通網も発達してくると白山信仰を普及する目的と貴重な財源としての御師活動も行っていた。全国に2,700社ある白山神社は、石徹白地域の御師達の懸命な普及活動があったからと思われる。

大事なことは、先人達が現在より過酷な状況の中、1,000年、2,000年の気の遠くなるような月日をかけて培ってきた**歴史遺産、文化遺産**をいかにして後世に伝えていけるかである。

⇒これからは「観光」がその一翼を担うかもしれない。